

講義名	フランス語 I		
(副題)	French I		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	4		
代表曜日	火曜日	代表時限	3 時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	1年前期		
必修・選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名
非常勤講師	◎ 大谷孝行

授業の概要	フランス語が使われている国は、フランス以外にも、ベルギー、スイス、カナダ、アフリカ諸国等、たくさんあります。英語以外にももう 1 か国語学ぶことで、あなたの視野は確実に広がるでしょう。この授業では、初めてフランス語を学ぶ人を対象に、フランス語のアルファベットからスタートし、順次フランス語の文章の仕組みを学習していきます。フランス語は発音が少し難しいので、つづりの読み方や発音の仕方には特に注意を払って勉強します。また、映像によってフランス各地を旅してその魅力を探ります。
キーワード①	発音
キーワード②	初級文法
キーワード③	初級会話
キーワード④	フランス文化

到達目標

到達目標①	①フランス語の綴りを発音できる。(20%)
到達目標②	②フランス語の簡単な文章の構造を理解でき、簡単な文章を「読み、書き、話し、聞く」ことができる。(70%)
到達目標③	③フランス各地の特色（観光名所、歴史的建築物、郷土料理など）を学び、他者に説明することができる。(10%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	0%
専門性の向上 (DP2)	60%
社会性の向上 (DP3)	40%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現②国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
◎	○			

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	◎	◎			

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	フランス語のアルファベ フランス語のアルファベの発音を学び、自分の名前の綴りをアルファベで言ってみる。	【復習】 アルファベを暗唱できるようにしておく。	30分
第2回	会話「こんにちは」、「はじめまして」。 フランス語で簡単なあいさつを試してみる。	【復習】 簡単なあいさつ表現の暗唱。	30分
第3回	名詞の性と数 名詞の男性名詞と女性名詞、単数形と複数形について。 数詞の1～10まで。	【復習】 男性形と女性形についての復習。	30分
第4回	会話「切符を買う」。冠詞 不定冠詞と定冠詞について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	【復習】 名詞の数と性に応じた冠詞の使い分けを復習しておく。	30分
第5回	会話「切符を買う」。動詞être と強勢人称代名詞 英語のbe動詞にあたる動詞êtreについて。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	【復習】 動詞êtreの活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第6回	動詞être と強勢人称代名詞 動詞être と強勢人称代名詞を使ったやや難しい表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	【復習】 強勢人称代名詞の種類と用法についての復習。	30分
第7回	会話「どこにお住まいですか？」 第1群規則動詞（er動詞）について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	【復習】 第1群規則動詞（er動詞）の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第8回	会話「どこにお住まいですか？」 動詞avoir について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	【復習】 動詞avoirの活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分

第9回	指示形容詞。avoirを使った慣用表現 「この、その、あの～」という表現。 avoirを使った 様々な表現を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 指示形容詞の種類と用法についての復習。	30分
第10回	会話「小銭を持っていません」 否定文の作り方。数えられない名詞につく部分冠詞。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 否定文の作り方についての復習。	30分
第11回	会話「小銭を持っていません」 否定文に使われるde。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 否定文に使われるdeについての復習。	30分
第12回	所有形容詞。様々な否定表現 「私の～、君の～」という表現。様々な否定表現を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 所有形容詞の種類と用法についての復習。	30分
第13回	基本数詞 1～100までの数詞を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 基本数詞の暗唱。	30分
第14回	総復習(1) これまでの授業を振り返って復習をします。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 授業内容の復習。	30分
第15回	総復習(2) これまでの授業を振り返って復習をします。	[復習] 授業内容の復習。	30分
第16回	中間試験		
第17回	会話「会場に入りましょう」。命令法 相手に合わせた命令文の作り方。	[復習] 命令文の作り方についての復習。	30分
第18回	会話「会場に入りましょう」 形容詞の性数変化について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 形容詞の性数変化についての復習。	30分
第19回	命令文と形容詞 様々な命令文の作り方と形容詞を使った表現。 bonを使った慣用句について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] bonを使った慣用句について暗唱。	30分
第20回	会話「これは何ですか？」 様々な疑問副詞「いつ?」「どこで?」「なぜ?」「どうやって?」。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 疑問代名詞についての復習。	30分
第21回	会話「これは何ですか？」 様々な疑問副詞「いつ?」「どこで?」「なぜ?」「どうやって?」。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 疑問副詞を使った文章を暗唱。	30分
第22回	前置詞のde、àと定冠詞le、lesの縮約。 C'est ～で感想を言う。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 前置詞と定冠詞の縮約についての復習。	30分
第23回	会話「ここで写真は撮れません」 pouvoir「～できる」、vouloir「～したい」。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います	[復習] 動詞pouvoir、vouloirの活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分

	す。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。		
第24回	会話「この絵の中ではどれが好きですか？」 疑問代名詞「どれ?」「どちら?」 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 疑問代名詞についての復習。	30分
第25回	会話（様々な依頼文） pouvoirとvouloirを使って様々な依頼文を作る。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 依頼文、許可を求める文の暗唱。	30分
第26回	フランス地方散策(1) フランス地図を使って、フランスの観光名所を散策。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] フランス語で書かれた地名や名所を読めるようにする。	30分
第27回	フランス地方散策(2) フランス地図を使って、フランスの観光名所を散策。	[復習] フランス語で書かれた地名や名所を読めるようにする。	30分
第28回	フランス地方散策(3) フランス地図を使って、フランスの観光名所を散策。	[復習] フランス語で書かれた地名や名所を読めるようにする。	30分
第29回	総復習(1) これまでの授業を振り返って復習をします。	[復習] 授業内容の復習。	30分
第30回	総復習(2) これまでの授業を振り返って復習をします。	[復習] 授業内容の復習。	30分
第31回	期末試験		

評価方法	到達目標1については、期末筆記テストで評価します。(20%) 到達目標2と3については、期末筆記テスト(80%)で評価します。 なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。
使用資料<テキスト>	田村弘行『フランス語で<ようこそ>』三修社。
使用資料<参考図書>	授業中に随時紹介します。
授業外学修等	毎回、授業の開始時に、前回授業の内容について小テストを行います。したがって、前回の授業を復習して授業に臨むことが必須です。 テキストの録音音声を各自が必ずダウンロードして、復習に役立ててください。
授業外質問方法	オフィスアワー時に直接質問を受けます。
オフィス・アワー	授業開始前や授業終了後に直接ご相談ください。



✕ ウィンドウを閉じる

講義名	異文化理解		
(副題)	Intercultural Understanding		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4 時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年前期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
非常勤講師	◎ 金奉吉

授業の概要	グローバル化社会での経済・社会活動は、異なる社会的背景や価値観を持った人々との共存共生について考える授業とします。国際社会における異文化について考え、さらに、異なった文化的背景を持った人々といかに共存できるかについて一緒に考えていきましょう。
キーワード①	グローバリゼーション
キーワード②	異なる考え方
キーワード③	身近な異文化
キーワード④	多文化共生

到達目標

到達目標①	①見える文化、見えない文化について説明できる。(40%)
到達目標②	②異文化受容のプロセスについて説明できる。(30%)
到達目標③	③生活様式、行動など非言語によるコミュニケーションができる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	20%
専門性の向上 (DP2)	50%
社会性の向上 (DP3)	30%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現①現代社会に必要な基礎知識の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
	◎		○		

授業計画表

回	【授業内容】	(事前・事後学習)	(事前・事後学習時間)
第1回	オリエンテーション 授業の概要や重要な点などについて説明する。	[予習] シラバスを読む。	90分
第2回	現代社会と文化①文化とは何か。	[予習] 文化についての資料を読んでくる。[復習] 文化について自分なりの考えをまとめる。	90分
第3回	現代社会と文化②身近な文化について考える。	[予習] 地域の文化について調べる。[復習] 身近な文化についてまとめる。	90分
第4回	現代社会とグローバル化。	[予習] グローバリゼーションとは何かについての資料を読んでくる。[復習] グローバル社会に求められることについてまとめる。	90分
第5回	異文化との出会い①	[予習] 異文化についての資料を読み、自分なりにまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第6回	異文化との出会い②イスラム文化	[予習] 資料を読み、自分なりにまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第7回	授業内容の整理とまとめ。	[予習] 資料を読み、自分なりにまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第8回	異文化との出会い③経済のグローバル化と社会活動	[予習] 資料を読み、自分なりにまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ&宿題。	90分
第9回	異文化適応。	[予習] 異文化適応についての資料を読む。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第10回	違いに気づく。	[予習] 資料を読み、自分の考えをまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第11回	異文化発見①身近な異文化について考える	[予習] 資料を読み、自分の考えをまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第12回	差別を考える。	[予習] 資料を読み、自分なりにまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第13回	多異文化受容のプロセス。	[予習] 資料を読み、自分の考えをまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分

第14回	非言語コミュニケーション。	[予習] 資料を読み、自分の考えをまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
第15回	異文化社会と国際協力③途上国の人々との話方（インタビュー調査）ワークショップ。	[予習] 資料を読み、自分の考えをまとめる。[復習] 授業内容の整理とまとめ。	90分
評価方法	授業への積極的取り組み姿勢10%、授業毎の小テスト・プレゼンテーション40%、期末テスト50% 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料<テキスト>	なし		
使用資料<参考図書>	異文化間コミュニケーション入門 著者：鍋倉健悦、出版社：丸善ライブラリー		
授業外学修等	各自、与えられた課題について授業時間外に調べてまとめる。		
授業外質問方法	授業の前後に受け付けます		
オフィス・アワー	授業科目の前後		



⊗ ウィンドウを閉じる

講義名	情報システム論		
(副題)	Information Systems		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年前期		
必修・選択区分	専攻必修		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 新森昭宏

授業の概要	情報システム論では、国家試験である「ITパスポート試験」の「テクノロジ系」基礎理論分野を中心に「情報システム」について学習する。「テクノロジ系」技術要素分野については「情報技術論」にて、「ストラテジ系」と「マネジメント系」については「情報マネジメント論」で学習する。つまり、「情報マネジメント論」「情報システム論」「情報技術論」の3科目で、「ITパスポート試験」の受験に必要な知識を網羅することになる。
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、情報サービス企業の研究部門で長期にわたって情報技術の研究開発と情報システム開発・管理に従事した。情報システム開発・管理について、自らの経験に基づいた説明を行う。
キーワード①	離散数学
キーワード②	アルゴリズム
キーワード③	コンピュータ
キーワード④	ソフトウェア
キーワード⑤	ハードウェア

到達目標

到達目標①	①「ITパスポート試験」シラバス (Ver. 6.3) の「テクノロジ系」(基礎理論、コンピュータシステム) に記載されている用語例について理解している。(40%)
到達目標②	②用語例について、具体例を挙げて説明できる。(30%)
到達目標③	③「ITパスポート試験」の過去問や模擬問題を、合格基準60%以上正解できる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	
専門性の向上 (DP2)	100%
社会性の向上 (DP3)	

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑤専門分野に共通する基礎知識の向上	現⑨経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎					

授業計画表

回	【授業内容】	(事前・事後学習)	(事前・事後学習時間)
第1回	情報システムとは ・授業の進め方の解説 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] シラバスを読んでおく。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第2回	基礎理論①（数値の数え方） (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「09-01 数値の数え方」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第3回	基礎理論②（集合と論理演算、データの単位） (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「09-02 集合と論理演算」「09-03 データの単位」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第4回	基礎理論③（データ構造、アルゴリズムとフローチャート、コンピュータ言語） (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「09-04 データ構造」「09-05 アルゴリズムとフローチャート」「09-06 コンピュータ言語」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第5回	基礎理論④（プログラミング①基礎知識、プログラミング②選択処理と繰り返し処理、プログラミング③関数） (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った確認テストを行う。)	[予習] テキスト「09-07プログラミング①基礎知識」、「09-08 プログラミング②選択処理と繰り返し処理」、「09-09 プログラミング③関数」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分

	結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)		
第6回	コンピュータシステム①（処理形態によるシステムの分類、利用形態やシステム構成による分類） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「10-01 処理形態によるシステムの分類」、「10-02 利用形態やシステム構成による分類」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第7回	コンピュータシステム②（ハードディスクの多重化、システムの評価指標） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「10-03 ハードディスクの多重化」、「10-04 システムの評価指標」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第8回	コンピュータシステム③（システムの信頼性、直列システムと並列システム） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「10-05 システムの信頼性」、「10-06 直列システムと並列システム」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第9回	これまでの復習と中間試験を行う。	[予習] テキストを再確認し、試験準備しておく。 [復習] 中間試験結果を確認しておく。	180分
第10回	ハードウェア①（コンピュータの種類、コンピュータの5つの役割） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「11-01 コンピュータの種類」、「11-02 コンピュータの5つの役割」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第11回	ハードウェア②（演算と制御、記憶） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「11-03 演算と制御」、「11-04 記憶」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第12回	ハードウェア③（入力と出力、入出力インタフェース） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「11-05 入力と出力」、「11-06 入出力インタフェース」を読んで学習する。 [復習] 授業で学んだ練習問題を再確認しておく。	180分
第13回	ソフトウェア①（OSの役割と4つの機能、データ管理とファイルシステム、バックアップ、アプリケーションソフトウェア） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「12-01 OSの役割と4つの機能」、「12-02 データ管理とファイルシステム」、「12-03 バックアップ」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第14回	ソフトウェア②（アプリケーションソフトウェア、情報デザインとソフトウェアの権利） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキスト「12-04 アプリケーションソフトウェア」、「12-05 情報デザインとソフトウェアの権利」を読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第15回	全体復習 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] これまでに読んできたテキストを復習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。期末試験に向けた学習を行う。	180分
第16回			

評価方法	毎回の確認テスト(15%)、中間試験(40%)、期末試験(45%)にて評価する。 出席確認 = Microsoft Formsを使った確認テストに回答することで自動確認 ⇒ 欠席が3分の1を超える学生は、評価対象外。 「富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕」に従って評価する。
使用資料<テキスト>	高橋 京介著, 「いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集」(令和8年[2026年]版), SBクリエイティブ。
使用資料<参考図書>	授業で説明に使ったスライドを配布する。

授業外学修等	<ul style="list-style-type: none">・テキスト該当部分を参照し、必ず予習をすること。・授業で説明した内容の理解を深め、記憶を定着させるためにも復習をすること。
授業外質問方法	質問等は、メールを利用するか、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。 (メールアドレスは、shinmori@tuins.ac.jp)
オフィス・アワー	水曜日・1限目 (9:10~10:40) ・127研究室



✕ ウィンドウを閉じる

講義名	情報マネジメント論		
(副題)	Information Management		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年前期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 新森昭宏

授業の概要	情報マネジメント論では、国家資格である「ITパスポート試験」の「ストラテジ系」と「マネジメント系」の対象範囲を学習する。なお、「テクノロジ系」は「情報システム論」と「情報技術論」で学習する。つまり、「情報マネジメント論」「情報システム論」「情報技術論」の3科目で、「ITパスポート試験」の受験に必要な知識を網羅することになる。
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、情報サービス企業の研究部門で長期にわたって情報技術の研究開発と情報システム分析・開発・管理に従事した。情報システム分析・開発・管理について、自らの経験に基づいた説明を行う。
キーワード①	技術戦略
キーワード②	システム戦略
キーワード③	開発技術
キーワード④	プロジェクトマネジメント
キーワード⑤	システム監査

到達目標

到達目標①	①「ITパスポート試験」シラバス (Ver. 6.3) の「ストラテジ系」と「マネジメント系」に記載されている用語例について理解している。(40%)
到達目標②	②用語例について、具体例を挙げて説明できる。(30%)
到達目標③	③「ITパスポート試験」の過去問や模擬問題を、合格基準70%以上正解できる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	
専門性の向上 (DP2)	100%
社会性の向上 (DP3)	

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑤専門分野に共通する基礎知識の向上	現⑨経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎					

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ITパスポート試験の概要 企業活動①（株式会社と経営理念、企業の責任、経営資源、経営組織）	〔予習〕 シラバスとテキストの序章から01-04までを読んで学習する。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第2回	企業活動②（業務分析と業務計画、経営者の意思決定と問題解決手法、損益分岐点、財務諸表と6つの利益） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 テキストの01-05から01-08までを読んで学習する。 〔復習〕 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第3回	法務①（3つの知的財産権、産業財産権とその他の権利、セキュリティ関連法規） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 テキストの02-01から02-03までを読んで学習する。 〔復習〕 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第4回	法務②（労働関連法規と取引関連法規、その他の法律、標準化） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 テキストの02-04から02-06までを読んで学習する。 〔復習〕 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第5回	経営戦略マネジメント（経営戦略とSWOT分析、PPM、経営戦略に関する重要用語、事業戦略と経営管理システム） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 テキストの03-01から03-04までを読んで学習する。 〔復習〕 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第6回	技術戦略マネジメント①（技術開発戦略の立案・技術開発計画、ビジネスシステム、エンジニアリングシステム） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使	〔予習〕 テキストの04-01から04-03までを読んで学習する。 〔復習〕 授業で説明したスライド	180分

	った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	とテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	
第7回	技術戦略マネジメント②(生産管理の計算問題、e-ビジネス、IoTシステム・組み込みシステム) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの04-04から04-06までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第8回	前半のまとめ 中間試験	[予習] これまで説明した事項とテキストを復習する。 [復習] 中間試験において、間違っていた部分を復習する。	180分
第9回	システム戦略①(情報システム戦略、業務プロセス、業務プロセスを改善する方法、ソリューションビジネス) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの05-01から05-04までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第10回	システム戦略②(システムの活用促進と評価、システム企画、企画プロセスと要件定義プロセス、調達計画・実施) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの05-05から05-08までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第11回	開発技術①(システム開発技術、システム要件定義、システム設計、プログラミング) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの06-01から06-04までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第12回	開発技術②(テストとソフトウェア受入れ、運用プロセスと保守プロセス、ソフトウェアの開発モデル) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの06-05から06-07までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第13回	プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネジメントと3つの制約、PMBOKとは、プロジェクトスケジュールマネジメント、プロジェクト資源マネジメント、プロジェクトコミュニケーションマネジメント) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの07-01から07-06までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第14回	サービスマネジメントとシステム監査①(サービスマネジメントとITIL、SLMと可用性管理、サービスサポート) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの08-01から08-03までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第15回	サービスマネジメントとシステム監査②(ファシリティマネジメント、システム監査、内部統制) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。)	[予習] テキストの08-04から08-06までを読んで学習する。 [復習] 授業で説明したスライドとテキストを再確認し、確認テスト結果を見直しておく。	180分
第16回			
評価方法	毎回の確認テスト(15%)、中間試験(40%)、期末試験(45%)にて評価する。 出席確認 = Microsoft Formsを使った小テストに回答することで自動確認 ⇒ 欠席が3分の1を超える学生は、評価対象外。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。		
使用資料<テキスト>	高橋 京介著, 「いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集」(令和8年[2026年]版), SBクリエイティブ。		
使用資料<参考図書>	授業で説明に使ったスライドを配布する。		
授業外学修等	・テキスト該当部分を参照し、必ず予習をすること。 ・授業で説明した内容の理解を深め、記憶を定着させるためにも復習をすること。		
授業外質問方法	質問等は、メールを利用するか、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。 (メールアドレスは、shinmori@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	水曜日・1限目(9:10~10:40)・127研究室		

講義名	多文化共生論		
(副題)	Multiculturalism		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3 時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	3年前期		
必修・選択区分	専攻必修		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 石渡華奈

授業の概要	<p>The term “Tabunka Kyōsei” used in the course title was coined in Japan and originated in Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. In January 1993, the keyword “Tabunka Kyōsei” first appeared in a Japanese newspaper. In January 1995, the Great Hanshin-Awaji Earthquake affected the Kansai area, and to provide support to foreign residents, the Center for Tabunka Kyōsei was established, in whose prospectus the following is stated:</p> <p>Based on the “Tabunka Kyōsei” philosophy that transcends differences in nationality, culture, language, etc., and promotes mutual respect, the Center aims to create and implement projects for “Tabunka Kyōsei” for both foreign and Japanese residents in Japan.’</p> <p>In this course, following this philosophy, we will consider and acquire the knowledge and methods of communication for people with different roots, cultural backgrounds, languages, genders, values, etc., to mutually understand, respect, and live together.</p> <p>All lessons are conducted in English, and emphasis is placed on deepening reflection through active discussion among students rather than imparting knowledge from the instructor.</p>
キーワード①	Intercultural Cohesion
キーワード②	Diversity
キーワード③	Discrimination
キーワード④	Equity
到達目標	
到達目標①	1. Can explain what “Tabunka Kyōsei” means. (40%)
到達目標②	2. Can explain the current status and challenges of Tabunka Kyōsei society that Japan is facing and you are facing. (30%)
到達目標③	3. Can demonstrate the improved ability to think in terms of diversity, discrimination, and equity. (30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
◎	○	◎

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	40%
専門性の向上 (DP2)	20%
社会性の向上 (DP3)	40%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現②国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
◎	◎	◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
○	◎		○		

授業計画表

回	【授業内容】	(事前・事後学習)	(事前・事後学習時間)
第1回	Guidance (Explanation of the outline, the goals, the weekly schedules, the evaluation methods, etc.) Introduction to Tabunka Kyōsei (Intercultural Cohesion)	[予習] N/A [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson.	45分
第2回	Part 1 Consider Diversity 1. Intercultural Social Skills Students will learn that diverse and characteristic “social skills” are required for communication in different regions, countries, and cultures. They will also learn that each person has their own culture, and therefore, the way of communication is different even in the same culture area. They will think about how to live well together when moving to a new environment or accepting new people.	[予習] Read Chapter 1 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第3回	Part 1 Consider Diversity 2. Tolerance Students will seek their own answers to what it means to be “tolerant”, “open-minded”, and “generous”. They will also consider the balance between what should and should not be “tolerated”.	[予習] Read Chapter 2 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第4回	Part 1 Consider Diversity 3. Assertion Training	[予習] Read Chapter 3 of the textbook. Write answers to Warm-up	90分

	Students will consider and understand their communication type objectively. They will learn what “assertive” communication is and how they can convey their ideas and emotions to others. They will become able to communicate assertively when necessary.	Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	
第5回	Part 1 Consider Diversity 4. Cross-cultural Contact in Business Students will gain an opportunity to think about cross-cultural friction in business settings. They will learn that there are various evaluation methods and criteria and ideal personas for leaders. They will also learn how to deal with their feelings when they feel something is going wrong.	[予習] Read Chapter 4 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第6回	Part 1 Consider Diversity 5. Japanese and Foreigners Students will reconsider the terms “Japanese” and “foreigners” and understand their diversity and complexity. They will learn the concept of “third-party response” and recognize how unreasonable it is in light of their own experiences. They will also learn that “foreigners”, as well as “gaijin”, can cause displeasure to others.	[予習] Read Chapter 5 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第7回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 1. Microaggression Students will realize that what we say and do without thinking carefully can be hurtful to others. By learning about microaggressions, they will raise their awareness of their own words and actions. They will think about how to eliminate microaggressions.	[予習] Read Chapter 7 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第8回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 2. Minority and Majority Students will learn that “majority” and “minority” are not absolute but relative. Those in the “majority” position will be able to be thoughtful of those in the “minority” position. Students will become willing to listen to voices that are often silenced in society.	[予習] Read Chapter 8 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第9回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 3. Universal Design Students will become aware of inconveniences in society that they do not notice when they belong to the majority or when they are not in trouble. They will gain imagination and consideration for people in different positions and situations from themselves. They will be able to see universal design as something close to them and look for opportunities to do something they can do.	[予習] Read Chapter 9 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第10回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 4. Stereotypes Students become aware of the irrationality and risks of the common phrases they hear every day, such as “people from Country A are X”, “that person is Y because he lives in B Prefecture”, and “men are always Z”. Students will learn about the concepts of stereotypes and essentialism.	[予習] Read Chapter 11 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第11回	Part 3 Consider Language Equity 1. Language Acquisition of Children Across Borders Students will understand that there are people who are struggling with language and culture without being known. They will learn that there are cases where their nationalities, mother tongues, cultures, etc. cannot be simply dealt with within a fixed framework.	[予習] Read Chapter 13 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第12回	Part 3 Consider Language Equity 2. Easy Japanese Students will learn the concept of “easy Japanese (Yasashii Nihongo)”. They will learn the key translation points into “easy Japanese” and actually translate some sentences. They will realize that “easy Japanese” is beneficial not only for non-native speakers and learners of Japanese but also for native speakers of Japanese.	[予習] Read Chapter 14 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第13回	Part 3 Consider Language Equity 3. Sign Languages	[予習] Read Chapter 15 of the textbook. Write answers to Warm-up	90分

	Students will learn that sign language is a language and the mother tongue of the deaf and to think about what these facts mean. They will also learn the difference between Japanese Sign Language and Signed Japanese (Manually Coded Japanese) and think about its meaning. They will recognize that there have been misunderstandings and prejudices against Japanese Sign Language as a minority language.	Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	
第14回	Part 3 Consider Language Equity 4. Language Variation Students will become aware of the differences and similarities between “being able to speak a dialect” and “being able to speak a foreign language”. They will consider how we should be aware of the differences in language use and accents in an age when we live together with foreigners.	[予習] Read Chapter 18 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第15回	Part 3 Consider Language Equity 5. Tabunka Kyōsei Society and English Students will examine the merits and demerits of English-only culture in Japan. They will learn the concept of World Englishes and English's role as a Lingua Franca and consider what kind of English people should learn.	[予習] Review what has been covered in the lessons in Weeks 1-14. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第16回	Final Examination		

評価方法	Active participation in class activities: 30% Assignments: 30% (15% for completion and submission by the due date, 15% for quality) Final Exam: 40% 評価は「富山国際大学評価基準」に従って行う。
使用資料<テキスト>	『多文化社会で多様性を考えるワークブック』 有田佳代子 / 志賀玲子 / 渋谷実希 編著 (研究社)
授業外質問方法	The next period after class is suitable. Otherwise, please make an appointment via email (ishiwatari@tuins.ac.jp) etc.
オフィス・アワー	木曜日・2限目 (10:50~12:20) ・425研究室

講義名	音楽Ⅱ（A）		
(副題)	Music II		
開講責任部署	子ども育成学部子ども育成学科		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3時限
校地	呉羽キャンパス		
開講時期	2年前期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
講師	◎ 湯澤卓
非常勤講師	大畑理博

授業の概要	1コマの半分は子どもの歌の課題を中心に、ピアノ演奏の習熟度別2グループに分かれて演習を行い、ピアノと歌唱を通して、保育・教育に必要な音楽の技能をさらに幅広く学び、表現力をより高めます。1コマの半分はリトミックやボディパーカッションを中心とした多様な音楽表現活動を学習します。 2回行われる特番授業では、合唱や音楽づくり、音楽を使った手遊びや歌遊びなどを体験します。 (担当教員：【湯澤】小学校での実務経験あり【大畑】専門学校での実務経験あり)
実務経験を活かした教育内容	大畑、湯澤とも、音楽経験が豊富です。ピアノの演奏では細かい技術、演奏上のポイントなどを、演奏者の視点で初歩から指導します。またリトミックでは、体を動かしながら音楽を楽しんだり、リズムに乗って仲間と協働しながら学ぶ、実践に即したプログラムを体験することができます。 特番授業では、実際の小学校の授業や幼稚園、保育園の活動で用いられている内容を取り上げ、実習等でも活用できる音楽的な指導技術を身に付けることができます。
キーワード①	ピアノ
キーワード②	リトミック
キーワード③	歌唱
キーワード④	ボディパーカッション

到達目標

到達目標①	音楽の構造や楽器の魅力などについて幅広く学び、保育・教育に必要な音楽の表現力をより高める。(20%)
到達目標②	ピアノ奏法、歌唱法、器楽奏法、身体表現について学習し、小学校、幼稚園、保育所での音楽表現活動の指導に必要な基礎的能力を伸長する。(80%)
到達目標③	
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

○		○	○			
---	--	---	---	--	--	--

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	10%
専門性の向上 (DP2)	80%
社会性の向上 (DP3)	10%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
子②子ども育成の理論と実践	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
	○	◎		○

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
		◎	○		

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	オリエンテーション ・講師紹介 ・スケジュールについて ・レッスンシステムについて ・レッスン内容について *全体オリエンテーション	【復習】オリエンテーションの内容を振り返る。また、グレード表を確認し、練習を始める。	90分
第2回	指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：リトミック（音の階段・音とハンドサイン）*グループレッスン ・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。	【予習・復習】リトミック：学習した内容ができるように練習する。 ピアノ：課題を選択し、練習する。	180分
第3回	指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：リトミック（リズムと指揮）*グループレッスン ・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。	【予習】ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 【復習】リトミック：学習した内容ができるように練習する。	180分
第4回	指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：歌唱指導とリトミック（1拍、2拍子の身体表現・ダンス）*	【予習】ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。	180分

	<p>グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	
第5回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：歌唱指導とリトミック（2・3拍子の身体表現・ダンス）*グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>〔予習〕ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	180分
第6回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：歌唱指導とリトミック（4拍子の身体表現・ダンス）*グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>〔予習〕ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	180分
第7回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：歌唱指導とリトミック（6/8拍子の身体表現・ダンス 他）*グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>〔予習〕ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	180分
第8回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大村）：歌唱指導とリトミック（いろいろなりズム）*グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>〔予習〕ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	180分
第9回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：ボディパーカッション（手と足を使って）*グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。 *授業の冒頭、特番授業テーマのアンケートを行う。</p>	<p>〔予習〕ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	180分
第10回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*個別レッスン 指導（大畑）：ボディパーカッション（言葉とリズム）*グループレッスン</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>〔予習〕ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。 〔復習〕リトミック：学習した内容ができるように練習する。</p>	180分
第11回	<p>特番授業【指導；湯澤、大畑】 合唱、音楽づくり、鑑賞など、いくつかの提示されたテーマから学生アンケートを実施する。アンケート結果を踏まえて、1テーマ45分の体験型プログラムに取り組む。 *グループワーク *体験型活動</p> <p>・終了後にFormsでミニレポートを作成。</p>	<p>〔予習〕ピアノもリトミックも、これまで学習してきた内容を繰り返し練習する。 〔復習〕ミニレポートの提出。特番授業を振り返り、現場に出てからどのような活動をするか、授業をつくるかを考える。</p>	180分

第12回	<p>特番授業【指導；湯澤、大畑】 合唱、音楽づくり、鑑賞など、いくつかの提示されたテーマから学生アンケートを実施する。アンケート結果を踏まえて、1テーマ45分の体験型プログラムに取り組む。 *グループワーク *体験型活動</p> <p>・終了後にFormsでミニレポートを作成。</p>	<p>【予習】ピアノもリトミックも、これまで学習してきた内容を繰り返し練習する。 【復習】ミニレポートの提出。特番授業を振り返り、現場に出てからどのような活動をするか、授業をつくるかを考える。</p>	180分
第13回	<p>特番授業【指導；湯澤、大畑】 合唱、音楽づくり、鑑賞など、いくつかの提示されたテーマから学生アンケートを実施する。アンケート結果を踏まえて、1テーマ45分の体験型プログラムに取り組む。 *グループワーク *体験型活動</p> <p>・終了後にFormsでミニレポートを作成。</p>	<p>【予習】ピアノもリトミックも、これまで学習してきた内容を繰り返し練習する。 【復習】ミニレポートの提出。特番授業を振り返り、現場に出てからどのような活動をするか、授業をつくるかを考える。</p>	180分
第14回	<p>特番授業【指導；湯澤、大畑】 合唱、音楽づくり、鑑賞など、いくつかの提示されたテーマから学生アンケートを実施する。アンケート結果を踏まえて、1テーマ45分の体験型プログラムに取り組む。 *グループワーク *体験型活動</p> <p>・終了後にFormsでミニレポートを作成。</p>	<p>【予習】ピアノもリトミックも、これまで学習してきた内容を繰り返し練習する。 【復習】ミニレポートの提出。特番授業を振り返り、現場に出てからどのような活動をするか、授業をつくるかを考える。</p>	180分
第15回	<p>指導（湯澤）：ピアノ（グレード表による自主選択課題）*成果発表を兼ねる 指導（大畑）：創作発表会（ボディパーカッションアンサンブルB）</p> <p>・終了後にFormsで振り返りを行います。 〈フィードバック〉模範演奏と学生の演奏に対して助言をします。</p>	<p>【予習】ピアノ：課題を選択し、指使いを決める。片手ずつゆっくりとしたテンポで練習する。両手でゆっくりとしたテンポで練習する。次第にインテンポで演奏できるように練習を繰り返す。リトミック：学習した内容ができるように練習する。 【復習】学習した内容を振り返り、今後活用できるようにノートやレポートにまとめておく（提出は求めない）。</p>	180分
第16回	<p>期末テスト（対象者のみ） 指導（湯澤）：ピアノ *グレードの初級ステージ未到達者のための補充レッスン 指導（大畑）：リトミック試験</p>	<p>【事前】ピアノもリトミックも、合格のために練習をする。</p>	180分

評価方法	<p>技能の習得度（80%）、音楽表現の知識・理解(10%)、ミニレポートや振り返りなど(10%)により総合的に評価する。 到達目標については、富山国際大学の成績評価基準に従って評価する。</p>
使用資料<テキスト>	<p>初等科音楽教育研究会編『最新小学校音楽科教育法』（音楽之友社）、坂東貴余子編『簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン【改訂新版】』（ドレミ出版社） *その他、必要に応じて指示を出します。</p>
使用資料<参考図書>	<p>参考資料（楽譜等）を適宜配布</p>
授業外学修等	<p>各自課題を自身で設定し、練習して授業に臨んでください。筆記用具を持参してください。</p>
授業外質問方法	<p>それぞれの担当について、授業終了後</p>
オフィス・アワー	<p>【湯澤】木曜日・2限目（10:50～12:20）・E602研究室 【大畑】授業終了後、E608（音楽室）等で</p>



⊗ ウィンドウを閉じる